

2011年度司書課程主催行事等報告

中 村 百合子

(立教大学司書課程主任)

2011年度に司書課程が主催した行事等を時系列で、以下に簡単に報告する。

5月14日(土)、図書館実習事前指導Ⅱに、埼玉県立浦和図書館副館長の乙骨敏夫氏をお招きした。実習生が事前に心しておくべきことについてとてもいいねいにお話くださり、学生たちには実習前の浮足立った感じがあったのが、このあと、少し落ち着いた雰囲気になったように思われた。あらためて気を引き締めて、実習に臨んでもらえたと思う。このときのご講演の記録は、本誌に掲載することができた(P.9-10)。

9月から2012年1月には、次のとおり、5回に分けて、各種の図書館で働く職員らに対する連続公開講座「情報を評価し、判断する力をいかに育むか」を主催した。第1回から第4回については、大学から、公開講演会として、講師謝礼の助成を受けることができた。毎回、学内外から、20～30名強の出席者があった。

第1回 2011年9月24日(土) 15:00～17:00

テーマ:「知性の自由」を求める教育

講師:中尾ハジメ氏(京都精華大学大学院人文学研究科教授)

第2回 2011年10月29日(土) 15:00～17:00

テーマ:メディアとメディアリテラシー論者と図書館

講師:影浦岫氏(東京大学大学院教育学研究科教授)

第3回 2011年11月26日(土) 15:00～17:00

テーマ:読書の歴史から学ぶ・教える

講師:和田敦彦氏(早稲田大学教育・総合科学学術院教授)

第4回 2011年12月17日(土) 15:00～17:00

テーマ:情報リテラシーとシティズンシップ

講師:小玉重夫氏(東京大学大学院教育学研究科教授)

第5回 2012年1月28日(土) 13:00～17:00

テーマ:(まとめ)第1回から第4回の受講者の代表者を中心とする討議

この連続公開講座について、企画段階から、

足立正治先生(大阪樟蔭女子大学非常勤講師)が、遠く離れた関西から、中尾先生をご紹介くださるなど、たいへんな協力をしてくださった。その足立先生のほか、福家めぐみさん(三鷹市立第一小学校図書館司書)、吉田綾太さん(上智大学大学院生)、児玉英靖さん(洛星中学校・高等学校社会科教諭)が、第5回で、連続講座に参加しての思索・学びを報告してくださった。その日のご発表のテープ起こしを水谷智彦さん(立教大学大学院生)にさせていただいて、それをもとにして、発表者の方たちに、本誌に、連続公開講座からの学びについて文章を寄せていただき、当日の発表順に掲載した(P.43-56)。この連続公開講座の趣旨、第1回から第4回の講演記録等は、来年度中に、公表したいと思っている。

2011年度は、本学司書課程修了生を中心とする、図書館現場で活躍する方たちのグループである立教図書館人クラブとの連携を強める努力をはじめた。12月5日(月)の「図書館資料論」の授業時に、同クラブのメンバーで東京都立中央図書館司書でいらっしゃる、本学の理学研究科および司書課程修了生の佐藤眞一氏をお呼びし、講義をしていただくことができた。履修生たちは、たいへんな集中力で、講義に聞き入っていたように思う。また、授業後には、佐藤さんを学生が囲んで、特に司書になった経緯等について、質問をしていた。

12月26日(月)は、六本木ライブラリー見学会を実施した。参加学生は、青山学院大学、上智大学、東京大学、同志社大学の学生・院生を含んで15名、そして本学に関係する教職員6名が参加した。そのときの参加報告を、当日参加してくださった玉川大学の松山巖先生と、齊藤加菜さんから寄せていただくことができたので、本誌に掲載した(P.57-62)。

年明け早々、2012年1月6日(金)～7日(土)には、講座事務室の深野毅課長と司書課程主任の中村で陸前高田市を訪問した。そして、

同市教育委員会で、司書課程履修生と共に、なんらかのボランティアをしたいという思いを伝えた。7日には、中村が岩手県立図書館を訪問して、県内の図書館復興支援の担当の方と面会をすることができた。その後、岩手県立図書館と陸前高田市教育委員会と電話やメールで調整ができ、2月22日（水）～25日（土）に、陸前高田市において、図書館支援ボランティアを実現することができた。参加学生は11名、学内の職員3名、司書課程専任教員2名が参加した。このボランティア・プログラムについても、のちに何らかの記録をまとめることになるのではないかと思うが、本誌には、職員の中で中心となってこのプログラムの計画・実施を指揮してくださった、学校・社会教育講座事務室課長の深野毅氏から、寄稿してもらった(P.63-64)。また、学生がどんな思いで参加を申し込んだかを記録として残したく思い、3名の参加動機を本誌に掲載した(P.65)。

そのあと東京に戻ってすぐ、2月27日（月）には、学内の共生社会研究センター主催の公開講演会「原発訴訟のトップランナー：伊方原発訴訟弁護団長・藤田一良さんに聞く」に、共催者として加わった。原発の安全性の問題が広範に論じられた伊方原発1号機訴訟の資料が、

現在、本学の共生社会研究センターで所蔵・公開されているのだが、この資料のもともとの所有者であった原告側弁護団長の藤田弁護士をお招きして講演会を開催したものである。同センターが所蔵するこのような貴重な資料の整理と公開に、今後、司書課程としてなんらかに関わりたいという思いがあったのと、そもそも図書館専門職が知的自由の実現に向けて果たす役割が、同センターの理想ととても近いように思われたことから、企画・実施に司書課程主任が参加した。

このほか、司書課程が今年度、一年をとおして取り組んだのは、図書館法施行規則改正に伴う司書課程科目（新カリ設置および旧カリ変更）の文部科学省への届け出のための作業である。10月半ばにすべての資料を揃えて提出、年末には文部科学省から連絡があって一部書類の修正作業を行い、最終的に、3月に、認定の文書が届いた。この作業には、司書課程のすべての科目の兼任講師の先生方にご協力をいただいた。

以上、司書課程の運営のすべての面で、兼任講師の先生方、事務室の職員のみならずおしみなくご助力をいただいた。ここに記して、感謝申しあげる。